

## 2021年10月28日 社長会見要旨

### 【会見要旨】

本日は「2021年度第2四半期決算」、「再生可能エネルギー活用への新たな取り組み」、「ZEB普及拡大の取り組み」、「泊発電所の新規制基準適合性審査の対応状況」、「都市ガス販売の取り組み」、「小学生へのSDGs教育支援の取り組み」についてお話しいたします。

### 【2021年度第2四半期決算】

はじめに、「2021年度第2四半期決算」について、お手元の資料1の決算資料に沿ってご説明いたします。

2ページの上段「経営成績」の表をご覧ください。

売上高につきましては、積極的な卸販売の実施に伴う他の電気事業者さまへの販売電力量の増加などにより、前年同期に比べ161億円増加の2,734億円となりました。

経常利益につきましては、他の電気事業者さまへの販売電力量の増加や発電設備に係る修繕費の減少などはありませんでしたが、本年4月以降の燃料価格上昇の影響により、前年同期に比べ52億円減少の227億円となりました。

また、四半期純利益につきましては、経常利益の減少などにより、前年同期に比べ66億円減少の、174億円となりました。

続いて2ページ下段「財政状態」の表をご覧ください。

自己資本比率は前年度末に比べ、0.7ポイント改善し、14.5%となりました。

資料の7ページから15ページには、連結決算の収支比較表や販売電力量、供給電力量の実績などを、続く16ページには当第2四半期の経常利益の変動要因をまとめておりますので後ほどご覧ください。

以上、2021年度第2四半期決算の概要をご説明いたしました。

次に、2021年度の連結業績予想についてご説明いたします。4ページをご覧ください。

2021年度通期の連結業績につきましては、至近の燃料価格の上昇による影響などを踏まえ、本年7月30日に公表した業績予想を修正いたしました。

売上高につきましては、他の電気事業者さまへの販売電力量の増加や燃料価格上昇の影響が、時期ずれはありますが燃料費調整額に反映され、電気料金収入が増加することなどにより、7月の公表から330億円増加の6,330億円程度となる見通しです。

経常利益につきましては、燃料価格上昇の影響が燃料費にはすぐに反映され、収支が悪化する見込みであることから、7月の公表から120億円減少の110億円程度となる見通しです。

なお、表の中ほどに記載しております、2021年度通期の小売販売電力量につきましては、当第2四半期では概ね計画通り推移しており、7月の公表と同程度の224億kWh程度となる見通しです。

引き続き、当社をお選びいただけるよう、お客さまニーズを捉えた営業活動を積極的に展開してまいります。

今年度は、燃料価格の上昇という一過性の要因はありますが、期中におけるさらなる効率化の取り組みを徹底し、最大限の利益確保に努めてまいります。

17ページには2021年度の連結業績予想における経常利益の対前年変動要因をまとめておりますので後ほどご覧ください。

最後に、中間配当および期末配当予想についてご説明いたします。6ページをご覧ください。

今年度の中間配当につきましては、本日開催の取締役会において、前回公表した配当予想のとおり、普通株式は1株当たり10円、B種優先株式は定款の定めに従い実施することを決定いたしました。

また、期末配当予想につきましては、安定配当維持の観点から前回公表値から変更はなく、普通株式は1株当たり10円、B種優先株式は定款の定めに従い実施することを予定しております。

以上、2021年度第2四半期決算についてご説明いたしました。

## 【再生可能エネルギー活用への新たな取り組み】

次に、再生可能エネルギー活用への新たな取り組みについてです。

ほくでんグループでは、発電部門からの CO2 排出量を 2030 年度に 2013 年度比で 50%以上削減させる目標を掲げ、さらに、2050 年までの排出ゼロを目指しています。

また、再生可能エネルギーなどから製造した水素やアンモニアの活用を含めて、2050 年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラル実現に最大限挑戦していきます。

これらを実現するためには、発電時に CO2 を出さない泊発電所の再稼働に加え、再生可能エネルギーが果たす役割は大きいと考えています。

ほくでんグループにおける再生可能エネルギーは、これまで主に水力や地熱を開発・運営し、さらに至近では太陽光やバイオマスへの出資により電源種を多様化させてきました。

当社は今後も、再生可能エネルギーを積極的に活用していくため、新たに「北海道電力グリーンボンド」の発行および「水力発電所アライアンス事業」を実施することとしました。

お手元の資料 2 をご覧ください。1 点目の「グリーンボンド」の発行についてです。

当社は、再生可能エネルギーの開発などに資金用途を限定するグリーンボンドを発行します。

これにより、幅広いステークホルダーの皆さまに当社の積極的な環境への取り組みについて、より深くご理解いただくとともに、資金調達が多様化・安定化につながりたいと考えております。

発行額は 50 億円、期間は 10 年間で予定しており、本年 12 月の発行に向けて、準備を進めてまいります。

続けて、資料 3 をご覧ください。2 点目の「水力発電所アライアンス事業の実施」についてです。

本事業は、三菱商事さまと当社で「道南水力発電合同会社」を設立し、ほくでんグ

グループが所有する道南の 5 つの水力発電所のリプレースおよびその後の発電事業を行うものです。

水力発電は、先週、閣議決定された第 6 次エネルギー基本計画においても、純国産であることや優れた安定供給性を持つこと、地域共生型のエネルギー源であることが記載されています。

その一方で、新規開発の困難さも指摘されており、発電に利用していない水資源を活用した中小水力開発や老朽化した既存設備のリプレースを進めていく方向性が示されています。

今回、対象となる 5 つの発電所は、最も古い磯谷川第一発電所いそやがわで運転開始から 97 年が経過するなど、いずれも老朽化しており、運転を継続するためには、水車の更新を含む大規模なリプレースが必要です。

長年にわたり当社が培ってきた水力発電に関する知見に、三菱商事さまの国内外における再生可能エネルギー発電事業の知見を組み合わせることでより効率的なリプレースおよび長期安定的な事業運営が可能になります。

ほくでんグループは、今後もあらゆる手段を総動員して 2030 年度の CO2 排出削減目標の達成、2050 年までの CO2 排出ゼロの実現に向け着実に取り組みを進めてまいります。

### 【ZEB 普及拡大の取り組み】

次に、当社の ZEB 普及拡大の取り組みをご紹介します。参考資料 1 ページをご覧ください。

ZEB は、国のエネルギー基本計画やグリーン成長戦略において、高い普及目標が設定されており、業務部門の脱炭素化手段として注目を集めています。

当社は、2018 年に大手電力・ガス会社として初めて ZEB プランナーに登録され、以降、ZEB 普及拡大に向けて精力的に取り組んでいます。

2 ページ、3 ページをご覧ください。当社はこれまでに、公共施設や大型商業施設、オフィスビルなどの幅広い業種を対象に ZEB のご提案をしております。

このうち、2 ページ上段の記載は、ほくでんグループにおける不動産事業を担う北電興業が開発した賃貸オフィスビルです。

このビルでは、汎用性の高い設備を使って ZEB を実現しており、「ZEB はイニシャルコストが高い」という従来の ZEB のイメージを払拭する事例です。

当社は、これまで培ってきたエネルギー利用に関するノウハウと最新の知見を活用し、ZEB のご提案を通じてお客さまの脱炭素の取り組みをお手伝いしてまいります。

### **【泊発電所の新規制基準適合性審査の対応状況】**

次に、資料はございませんが、泊発電所の審査状況についてです。

7月の審査会合において、敷地内断層の活動性評価に対し、概ね妥当な検討がなされているとの評価をいただいたことなどを受け、新設する防潮堤や火山影響評価の審査が再開されました。

また、基準地震動の策定に向けて、震源を特定せず策定する地震動に関する補正書を提出したほか、先週の審査会合では、震源を特定して策定する地震動の当社評価内容について「おおむね妥当な検討がなされている」などのご発言がありました。

一方、原子力規制委員会からは、最新知見や他社審査状況の取り入れ方、資料のまとめ方のほか、審査に臨む姿勢などに対し、ご指摘をいただいています。

いずれにしましても、当社としては、新規制基準への適合性をご確認いただけるよう今後も最大限の努力を尽くしてまいります。

### **【都市ガス販売の取り組み】**

次に、当社の都市ガス「ほくでんガス」の取り組みについてです。お手元のほくでんガスのチラシをご覧ください。

今月1日で、当社が都市ガス事業に参入して丸1年が経過し、この間に多くのご契約をいただくことができました。

現在、1周年の感謝を込めて、月額基本料金が3か月無料になる大変おトクなキャンペーンを実施しています。

また、新たに2つの料金プランのお届けも開始しました。これにより、道央圏で都市ガスをご利用されているほぼすべてのお客さまに、ご利用状況にあわせておトクなプランをお選びいただけるようになりました。

さらに、ガス機器故障時に点検のプロが無料で出向くサービスなども新たにご用意し、安心してほくでんガスをご利用いただける万全のサポート体制を整えました。

今後もさまざまな取り組みにより、お客さまがお求めになる“安さ”と“信頼”でお応えし、ほくでんガスのさらなる契約獲得に向けてゼンリョクで突き進んでいきます。

### **【小学生へのSDGs 教育支援の取り組み】**

最後になりますが、ほくでんグループはおかげさまで、今年で創立 70 周年を迎えることができました。

これを機に、皆さまに感謝の意を込め、各種記念事業を実施していますが、そのひとつとして、北海道の未来を担う小学生への SDGs 教育の支援事業を今月から開始しました。

この取り組みは、SDGs に関する知識や児童の積極的な意見交換を促すための心構えを学んだほくでんグループの社員が、道内各地の小学校を訪れ、出前授業を行うものです。

授業では、動画や副教材「北海道 SDGs アクションブック」を使って SDGs を学ぶことで、児童が地球や社会の問題に対し、主体的に解決策を考え、具体的な行動をはじめていくきっかけとなることを目指します。

これまでに全道で約 30 校、児童数で約 2,000 名のお申込みをいただいております、順次、実施していくとともに来年度以降も継続してまいります。

ほくでんグループは、北海道の皆さまとともに、新たな価値をつくり上げる「共創」の考え方に基づき、SDGs の達成に向けて貢献してまいります。

私からは以上です。